https://www.mizushima-f.or.jp/

倉敷市水島からの事例報告

気候変動と健康　住まいの見方、考え方

みずしま財団　藤原園子



大規模なコンビナート開発→大気汚染公害→
倉敷公害訴訟1983年提訴→1994年判決

1996年和解、解決金の一部を基金に2000年に環境再生のまちづくりを担う財団設立

公害患者の往診　医師からの助言

住まい

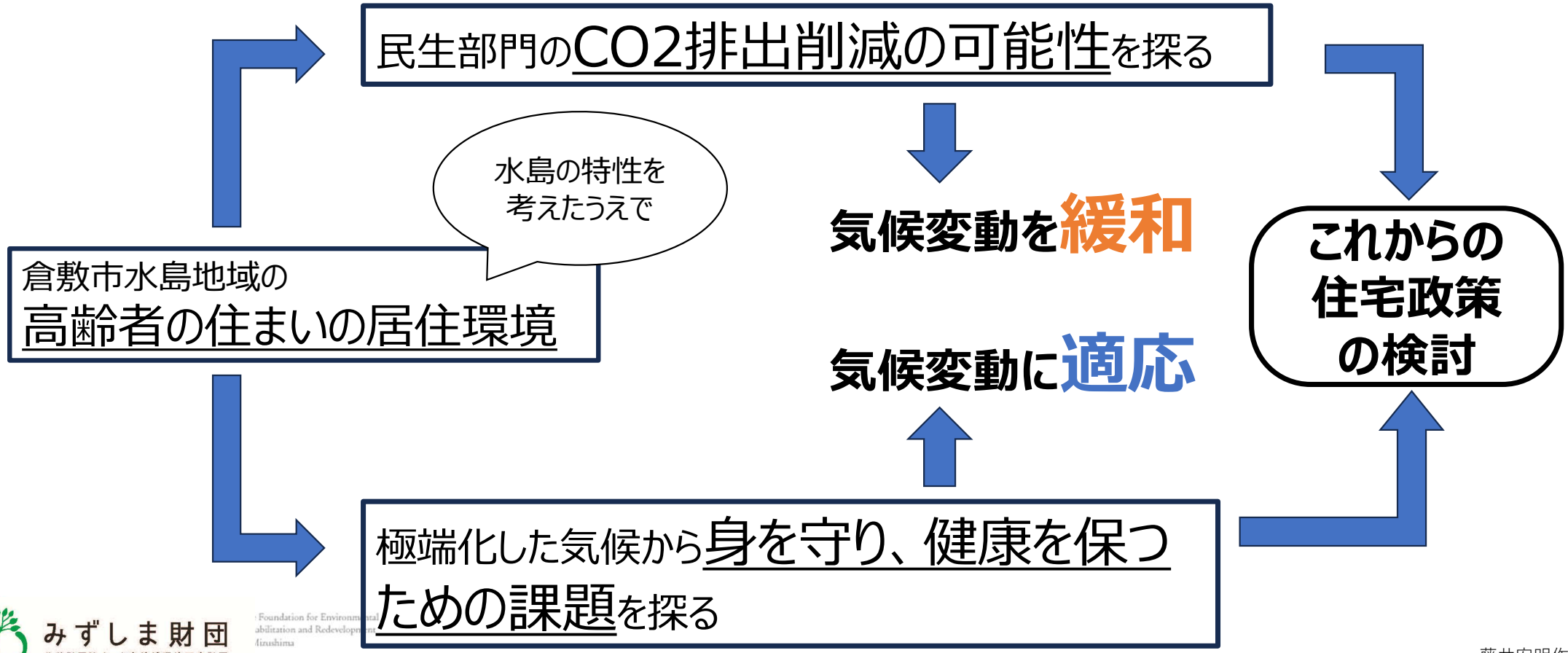
近年の猛烈な暑さ

看護師OB、ケースワーカーOB、高齢者支援センター等と
水島の住まいを考える会(2025年～)

写真：髙田昭雄氏

気候変動と健康な住まいの調査研究

（公財）おかやま環境ネットワークの助成金を得て令和7年度スタート



みずしま財団
公益財団法人 水島地域環境再生財団

藤井宏明作成

公営住宅住民へのヒアリング結果

夏季　結果

「昨年夏が特別に酷暑だったため、エアコンの使用料（電気代）が増えた」など

このような状況への対策の工夫が聞かれた。主には、脱水予防や塩分補給

冬季　結果

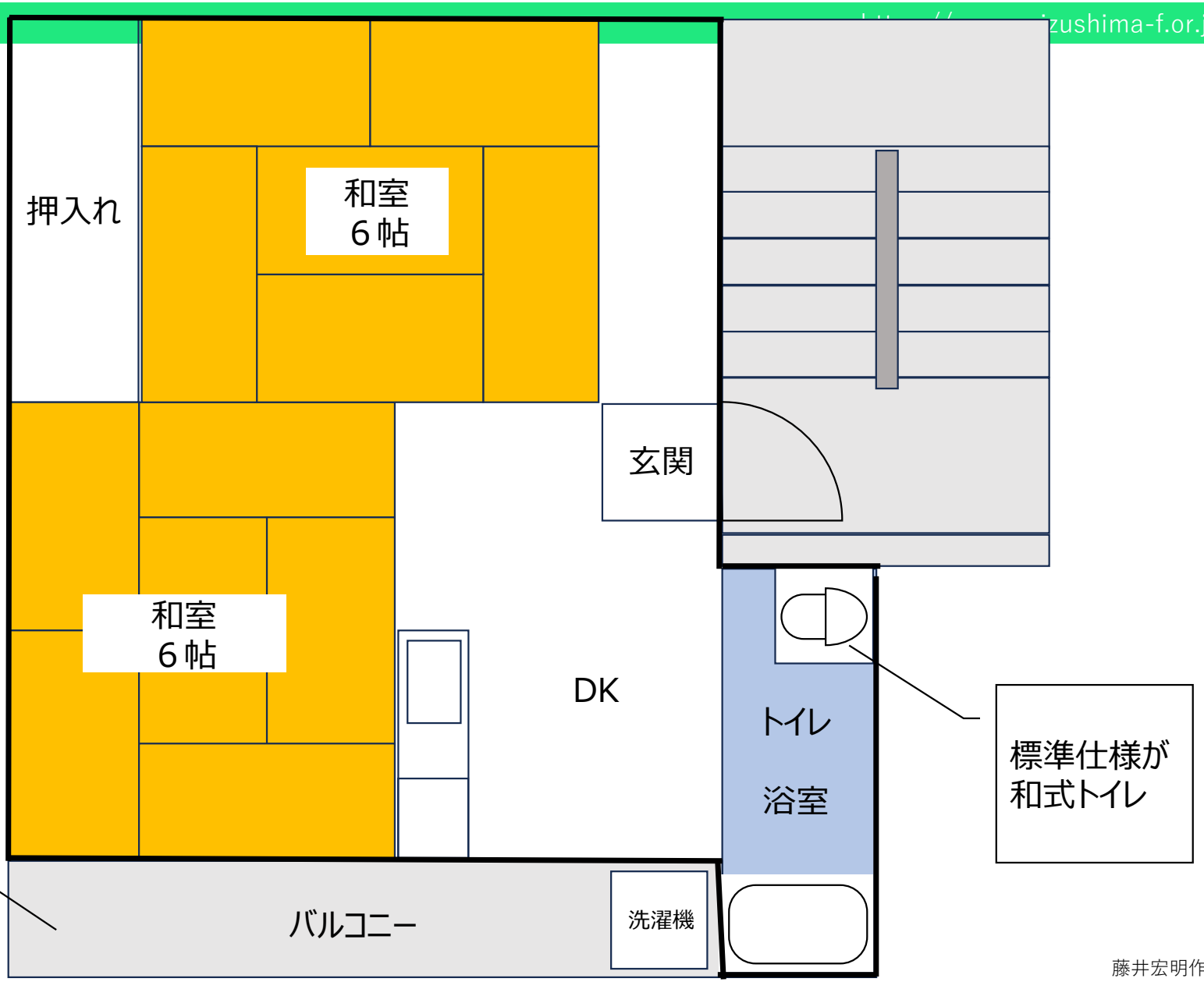
「隙間風がある」との発言の一方、部屋中に電気ストーブを置いているため、部屋中が暖かいとのこと。

浴室に浴槽を置いているため、洗濯機をバルコニーに置かないといけないが、寒い時間帯には選択しないようにしている。

見取り図

- 上階までエレベーターがない。
- 最上階は、屋上からの熱で室温が上昇する。

- 玄関は、スチールプレスドアのため、冷気を伝えやすい。
- 浴室には、浴槽と給湯器はないため住民自ら設置する必要がある。
- トイレは基本的に和式トイレ（汽車便トイレ）のためしゃがみ姿勢



藤井宏明作成

令和７年度ヒアリング調査等から見えてきたこと

同じ住宅環境でも、そこに住む人によって生活の工夫に違いがある。

現時点の住宅性能を理解したうえで、リスクへの緩和策をとる。

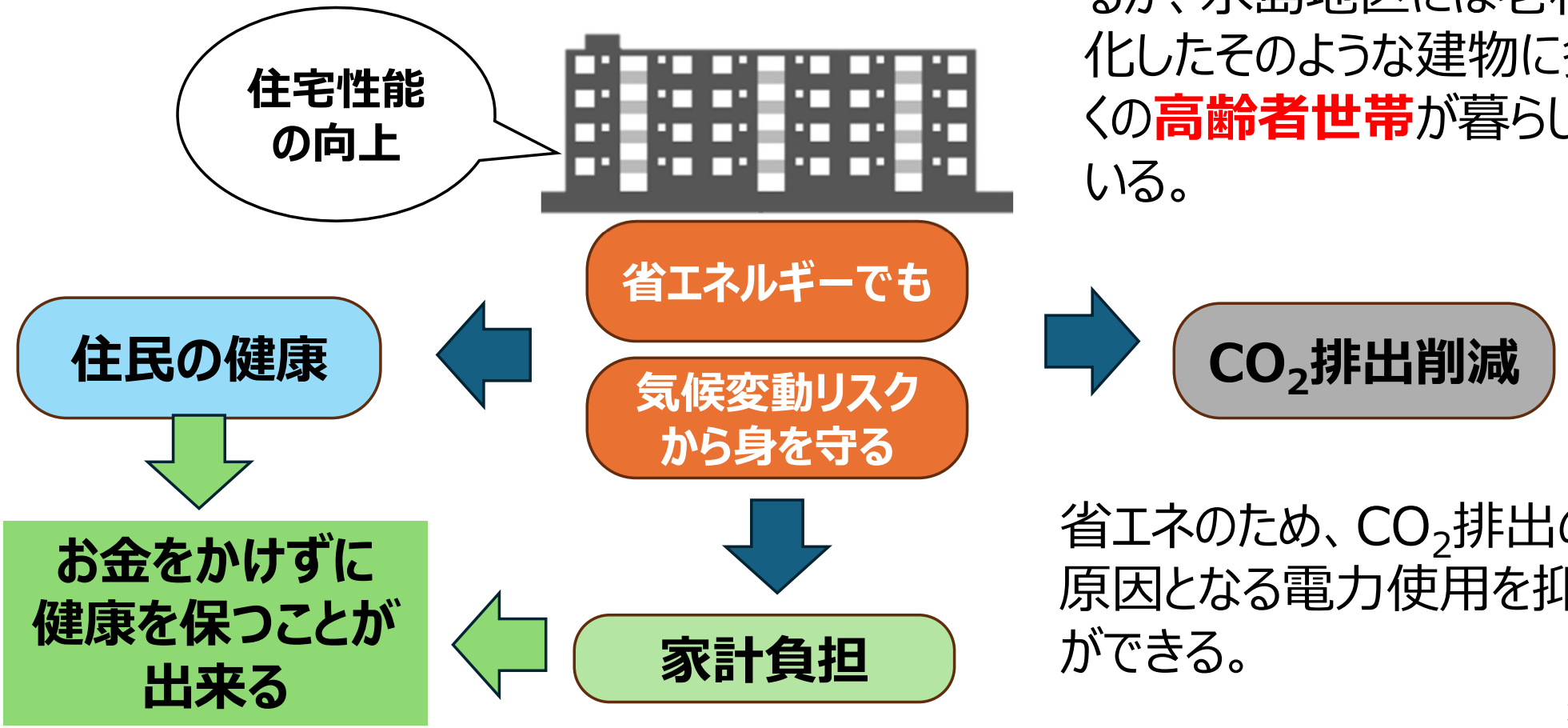
１．基礎体力作り
２．熱中症・ヒートショック対策としての習慣
３．道具を使うことでの緩和策
４．暑い・寒い環境にさらされる時間を減らす。

多くの人ができるわけではない。

個人の対処行動は、経済力、行動力、認知能力などが求められる。
これからの気候変動リスクを個人の能力と努力に任せてよいのか？

藤井宏明作成

今後、単身世帯の増加、持ち家率の低下等が進む中で、集合住宅（特に高齢者の住まい）の省エネルギー化は課題である。



集合住宅には、公営住宅や民間賃貸住宅が含まれるが、水島地区には老朽化したそのような建物に多くの**高齢者世帯**が暮らしている。

省エネのため、CO_2排出の原因となる電力使用を抑制ができる。

藤井宏明作成

鳥取県住宅政策課へのヒアリング



日時
2025年10月20日（月）13時～14時15分
場所　　鳥取県庁

先進自治体の事例として、
鳥取県へのヒアリングを
行った。

藤井宏明作成

区分	国の省エネ基準	ZEH（ゼッチ）	とっとり健康省エネ住宅性能基準		
			T-G1	T-G2	T-G3
基準の説明	2025年義務化基準	2030年義務化基準	冷暖房費を抑えるために必要な**最低限レベル**	経済的で快適に生活できる**推奨レベル**	優れた快適性を有する**最高レベル**
断熱性能　U_A値	0.87	0.60	0.48	0.34	0.23
気密性能　C値	—	—	1.0	1.0	1.0
冷暖房費削減率	0%	約10%削減	約30%削減	約50%削減	約70%削減
補助額（ZEH未取得の場合）			**60万円**（10万円）	**80万円**（30万円）	**100万円**（50万円）
世界の省エネ基準との比較					

※断熱性能（U_A値）：建物内の熱が外部に逃げる割合を示す指標。値が小さいほど熱が逃げにくく、省エネ性能が高い。
※気密性能（C値）：建物の床面積当たりの隙間面積を示す指標。値が小さいほど気密性が高い。
※ZEHは、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。断熱化による省エネと太陽光発電などの創エネにより、年間の一次消費エネルギー量（空調・給湯・照明・換気）の収支をプラスマイナス「ゼロ」にする住宅をいう。

NE-STと公営住宅

岩美町営住宅

　2024年にNE-STによる公営住宅の第一号（6戸）



鳥取県営上粟島団地(昭和44年)建替え事業

　PFI方式

　設計等開始　2026年

　完成予定　　2031年



2026年2月
報告会＆講演会

日時：2026年2月15日（日）

会場：倉敷医療生協会館3Fホール

講師：上園昌武氏（北海学園大学経済学部教授）

報告：藤井宏明（みずしま財団特別研究員）

参加者：26人

主催：（公財）水島地域環境再生財団

（公財）おかやま環境ネットワーク助成事業



参加者の声

「寒い部屋は人権侵害」「日本の光熱支援対策は理念なきばらまき」、そして「エネルギー貧困調査を先進国の中で日本はしていない」という点が印象的だった。社会全体の問題を自分ごと化できず行動できていない社会や団体そして個人がまだまだたくさんいると思うので政策提言によって注目が集まり市民参加がもっと増える社会になることを願いたい。
公助がメインでしたが、自助で実現できる人たちが自分事化して行動することも優先しなければ2050年CN実現は達成不可能です。
会社で北海道で使われているウレタン断熱を取り扱っているので、気候変動と住まいの関係についてとても考える講義でした。海外の取り組みにも視線を向けて今後意識していきたい。
エネルギー貧困について考えることが出来良かった。自分たちがエネルギー貧困のどのレベルにあるのかなどどう考えたらいいのか、10％以上かどうなのか、日本の調査とれていない国の政策、今の政府では…。
①ドイツ、シュタットヘルケの戦略オプション日本は民主的能力に欠けている。②自治体公社の対象に納得、日本は分散（分割）されすぎている。
海外の事例紹介が多く、すごくためになった。時間が短く残念だった。
エネルギー貧困は負の連鎖によっておこることが分かった。断熱対策がオーストリアで行われている。
イギリスだと暖房費に対する家計補助（手当）が財政から支出されるのではないか？スライドで説明されていました（No.14）。日本の生活扶助にも暖房費の扶助があるのでは？公務員の人件費の寒冷地手当が削減されたことも問題。民間賃金もこの流れにあるのか？スライド18は「気候変動の経済学」（イギリスのスターン報告）が示した政策を実行しているのでは？
日本のとりくみが遅れているのを改めて知りました。黒字事業→赤字補填（今の政府のままではこの発想はないだろうと）
これからはとても重要な事だと思った。急いで対策をとって欲しい。
エネルギー貧困は社会全体の問題。海外と比較して日本の問題に対する認識の低さがよく分かった。
エネルギー貧困への様々な対応が各国で始まっていることを知りました。日本でもすすめていかなければならないと思いました。
エネルギー貧困という表現をはじめて耳にして経済状況によって健康や住まいがおびやかされている。
エネルギー貧困について初めて聞くようなことばかりでした。あらゆる方面に影響を与えるんだなと思いました。それをどう自分に置きかえて考えるかむずかしい。
エネルギー効率が最も悪いのはブルガリア。断熱性が高いとやはりエネルギー効率が良いことを知った。英国では緊急救済措置は低所得者への光熱費の補助に対して日本の光熱費支援政策は理念なきばらまきに残念に思った。オーストリアではエコ幼稚園がある化学物質を使わず地球に還る、体に優しい。

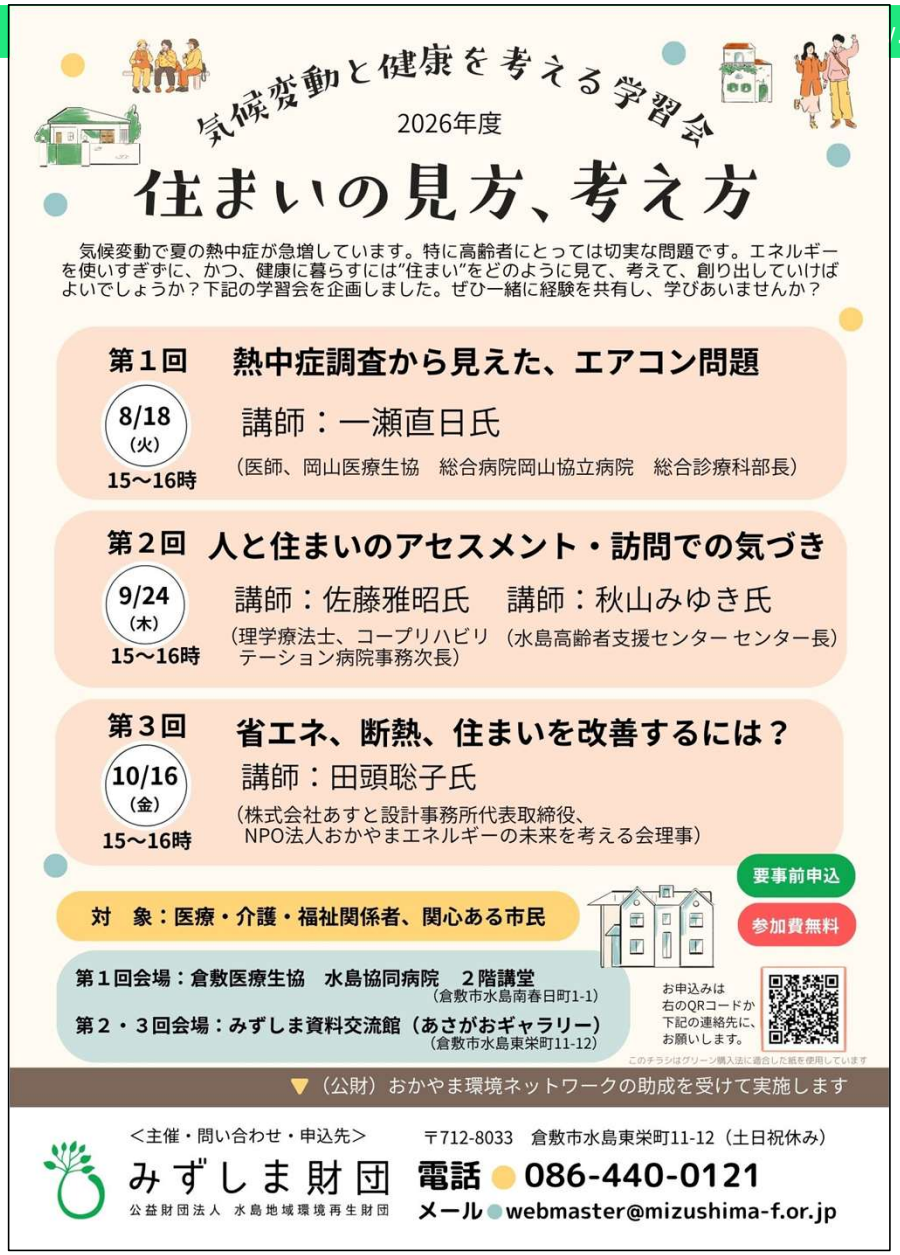
令和8年度

①医療・福祉・介護関係者の学習会

②ケアマネージャー等の協力による
住まい調査（8月下旬～9月中旬）

現場の声を集めていく
実態を明らかにする
関心ある仲間を増やしていく
政策提言していく

みずしま財団
公益財団法人 水島地域環境再生財団
e Foundation for Environmental
habilitation and Redevelopment
Mizushima




2026年度
住まいの見方、考え方
第1回 熱中症調査から見えた、エアコン問題
講師：一瀬恵日氏

暑さ指数（WBGT）は人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境、③気温の３つを取り入れた指標

第2回学習会では、
訪問する医療・介護のスタッフ自身の熱中症も心配な現状が報告された。



2026年5月～9月　岡山県では11人が熱中症で死亡　全国最多
（消防庁まとめ）

2026年5月～9月に、岡山県で熱中症で死亡した人は11人、全国最多・死者10人以上は、全国の都道府県で岡山県のみ。岡山県で熱中症で救急搬送された人は、1717人

第3回学習会では、
エネミラ理事で、
建築士の田頭さん
を講師に、窓の外
側で日射を遮る方
法について学んだ。

「住まいのどこを
見たらいいか？」
一緒に考えた。



みずしま財団調査(水島の住まいを考える会)

気候変動リスクに対する住宅と健康に関する調査研究

倉敷市水島地域における高齢者の住環境と、熱中症などの気候変動に伴う健康リスクとの関係を明らかにすることを目的

ご本人の同意のもと、日頃ご利用者を支援されているケアマネジャーの皆様に、ご利用者の生活状況や住環境についてご回答をお願いする

・水島高齢者支援センター

・水島居宅介護支援事業所

2026年8月下旬～9月中旬

調査票

【Ⅰ　ご利用者自身の基本情報　】(7問)

【Ⅱ　ご利用者の住宅について　】(6問)

【Ⅲ　冷房の有無やご利用者の暑さ対策　】(2)

【Ⅳ　住まいにおける温熱環境の状況　】(3問)

【Ⅴ　担当者としての所感】(1問)　　全19問

第２回　人と住まいのアセスメント・訪問での気づき

9/24 (木) 15～16時

講師：佐藤雅昭氏　(理学療法士、コープリハビリテーション病院事務次長)

講師：秋山みゆき氏　(水島高齢者支援センター センター長)

第３回　省エネ、断熱、住まいを改善するには？

10/16 (金) 15～16時

講師：田頭聡子氏

(株式会社あすと設計事務所代表取締役、NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会理事)

医療・福祉分野の人が使える「住まいのチェックシート」の作成

2027年2月7日(日)
報告会　＆　講演会

現場の声を集めていく
実態を明らかにする
関心ある仲間を増やしていく
政策提言していく